

令和4年度

事業報告書

学校法人 高野山学園

<目次>

I. 法人の概要

1. 法人の目的
2. 設置する学校の所在地等
3. 設置する学校・学部・学科等
4. 入学定員および学生数
 - (1) 高野山大学
 - (2) 高野山高等学校
 - (3) 高野山こども園
5. 役員・教職員数
 - (1) 役員数
 - (2) 教職員数

II. 事業の概要

1. 法人本部の事業報告
2. 高野山大学の事業報告
 - ① 教育
 - ② 学生支援

- ③ 研究
- ④ 国際連携・地域連携・地域貢献
- ⑤ 施設設備整備計画
- ⑥ 財務戦略
- ⑦ 組織・運営体制

3. 高野山高等学校の事業報告【別冊】

- (1) 高校経営
- (2) 大学との連携
- (3) 全日制課程
- (4) 通信制課程
- (5) 継続事業・新規事業
- (6) 生徒募集活動
- (7) 特色ある教育活動の模索
- (8) 施設・設備の整備事業
- (9) 高野町との連携

4. 高野山こども園の事業報告

1. 法人の概要

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。（『学校法人高野山学園寄附行為』第3条）

2. 設置する学校等の所在地等

設置する学校等	所在地	事業所長
高野山学園 法人本部	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385番地 TEL：0736-56-2922	本部長：山口 文章
高野山大学	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385番地 TEL：0736-56-2921（代）	学長：添田 隆昭
高野山高等学校	〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山212番地 TEL：0736-56-2204（代）	校長：橋本 真人
高野山こども園 ※受託事業 令和5年度より移転	〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山26-2番地 TEL：0736-56-2320	園長：立葉 了禅

3. 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部・学科等		
高野山大学	文学部		密教学科・人間学科・教育学科
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程
			密教学専攻修士課程（通信教育課程）
別科			
高野山高等学校	全日制課程 普通科		
	全日制課程 宗教科		
	広域通信制課程		
高野山こども園			

4. 入学定員及び学生数（令和4年5月1日現在）

(1) 高野山大学

	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
文学部	密教学科	30	30	120	112
	人間学科※	0	0	40	16
	教育学科	50	20	100	31
	計	80	50	260	159
大学院	密教学専攻	36	40	75	161
	修士課程	13	4	26	10
	博士後期課程	3	2	9	5
	修士課程（通信教育課程）	20	34	40	146
	仏教学専攻	16	2	35	5
	修士課程	13	1	26	4
	博士後期課程	3	1	9	1
	計	52	42	110	166
	別科	30	0	60	0

※人間学科は募集停止

(2) 高野山高等学校

○全日制課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	120	42	360	104
宗教科	30	6	90	23
計	150	48	450	127

○通信教育課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	300	2	900	24

(3) 高野山こども園

収容定員	園児数
76	42

5. 役員・教職員数（令和4年5月1日現在）

(1)役員数

役職名	氏名	現員	定数
理事長	今川 泰伸	1	1

役職名	現員	定数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

(2)教職員数

①法人本部

区分	専任職員	非常勤職員
事務局	4	1

②高野山大学

区分	学長	教授	准教授	専任講師	非常勤講師
教育職員	1	13	15	4	107

区分	専任職員 (契約含む)	非常勤職員
事務職員	27	3

③高野山高等学校

区分	校長	教頭	専任教員	非常勤教員
教育職員	1	2	12	16

区分	専任職員	非常勤職員
事務職員	12	0

④高野山こども園

区分	園長	副園長	専任教員	出向教員	非常勤教員
教育職員	1	1	5	1	7

II. 事業の概要

1. 法人本部の事業報告

項目	中期目標		2021年	詳細	数値目標	結果	来期以降の取組み
	目標	目標の説明					
ガバナンス強化	体制強化目標設定	学園全体をまとめるための目標を設定する	目標設定のための基本指針の作成	ガバナンス・コードの作成 私立大学の自主性・自律性（特色ある運営）、安定性・継続性（学校法人運営の基本）、教学ガバナンス（権限・役割の明確化）、公共性・信頼性（ステークホルダーとの関係）、透明性の確保（情報公開）	年度内作成	・目標策定に向けてガバナンスコード案策定 ・年度情報公開を大学ホームページに実施	経営改善を実現するために2023年度中に経営改善計画検討委員会の設置
	中長期計画策定	大学・高校が策定した計画について体制目標とすり合わせ、進捗を確認し助言・支援する	ガバナンス・コードに基づいた中期計画の内容見直し・執行チェック	各部門の計画を確認・執行チェックを実施し、乖離部分を把握し、中長期計画の見直しを行う 大学・高校部門の資金状況に応じた、運営計画の見直しを図る	年2回のレビュー/ 年度内見直し	中長期計画策定委員会開催	修正中期計画作成
組織力向上	教職員のスキルアップ・環境改善	研修計画や待遇の見直しについて各部門の意見を集約し、業務と職場に対する意識を刷新できるように努める	教職員状況ヒアリング・人事計画策定	各部門から教職員の状況をヒアリングし、改善点を検討、それに基づき配置および研修の計画を各部門に依頼、内容を確認する	計画の確認完了	若手職員向けの基礎研修実施	FD・SD委員会と連携して計画的に外部研修を開催
			人事評価制度案再検討	人事評価制度案を策定し、各部門でヒアリングを実施する	制度案完成	評価制度の情報収集を継続中、具体案は未着手	・情報収集の継続 ・制度案の作成
	組織効率化	組織再編成、規程の見直しなどを実施し組織をスリム化する	再編成後の体制調整	令和3年度体制の状況を確認し、指導・相談・必要に応じて追加の人事案作成	年内整備	・大学部門：令和5年度発令に向けて人事異動・採用計画の作成	人事計画作成
諸規程の見直し・整備			重複している規程、現状に見合わない規程などがなく確認、必要に応じて改廃を進める	年度内整備	給与規程、旅費規程の改定	・規程関係の重要事項引継ぎ ・定期チェック体制整備	
固定資産最適化	遊休資産の活用・処分	貸し出しや売却・譲渡などを整理し、遊休資産をスリム化する	外部事業者とのすり合わせ	各部門と協力して遊休資産の活用についての外部事業者の提案を検討する	2号基本金積立計100万	高等学校女子寮改装補助等のため積立見送り	2号基本金積立計100万

2. 高野山大学の事業報告

①教育

項目		中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
1	教育の質的保証の充実	教育の質的保証システムの効果的運用	PDCAサイクル等の方法を適切に機能させることにより、新設の教育学科を含め、全学において教育の質的保証システムの効果的運用を図る	①既存の学部・学科における教育の質的保証の徹底 ②新設学科における教育の質的保証システムの確立 ③FD/SD研修・学生アンケートの実施と点検	①②大学基準協会の大学評価において指摘のあった事項について、22年7月までに報告をする必要があるため、大学評価委員会が報告するための素案を作成する ③FD/SD研修と学生アンケートの取り組み実績および計画を確認、実施後の点検作業を行い、改善点を取りまとめる	①②22年度4月中に素案を作成する ③FD/SD研修及び学生アンケートの実施と点検及び改善点の取りまとめを年度内に完了する	①②素案作成し大学評価委員会より報告済み。 ③学生アンケート実施、集計済。集計結果について各担当教員から改善点を提出させ、取りまとめた。	①大学評価委員会が毎月の各種委員会をチェックする。 ②FD/SD研修及び学生アンケートの実施と点検及び改善点の取りまとめを年度内に実施する。
2	教育力の強化	密教学科の充実	密教学科の教育のさらなる充実を図る	①社会人受入のための新プランの策定 ②留学生受け入れプログラムの開発と「日本文化コース」の設置 ③教員の適切な配置を含む教育内容の見直し ④密教学科の履修区分として2つのコースを設置する	①在宅で受講を希望する社会人の受け入れプログラムの策定のためのWGを設置し、検討していく ②留学生受け入れプログラムの具体的な開講科目の検討会を実施し素案をまとめる ③教員の定年退職者教員を考慮した人事計画の作成と新規教員公募に向けた準備 ④「密教学コース」と留学生受け入れ用の「日本文化コース」を設置する	①毎月検討会を開催し、実施計画をまとめる ②科目・担当者案をまとめる ③年度内に教育内容に基づいた人事計画の作成 ④2022年度より設置開始する	①検討会を開催し、実施計画をまとめた。密教文化コースへ55名が入学し2023年度より運用開始。 ②科目・担当者案の検討開始。 ③未実施 ④「密教学コース」に4名（ロシア1名、台湾1名、中国2名）「日本文化コース」に1名（インド1名）が入学した。	①学科主任・事務部署で課題の検討を行い、各種委員会で調整する。 ②問題点の洗い出しを行う。 ③年度内に教育内容に基づいた人事計画の作成。

項目		中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
3	教育力の強化	教育学科の新設	2021年度に教育学科を新設し、本学の教育に小学校・幼稚園教員養成課程及び保育士養成課程を加えて、教育内容の充実を図る	①本校および他校との教育連携に向けた準備と実行 ②教育学科における学修成果の検証を継続。 ③地域社会と連携した教育の充実。 ④入学生の確保 ⑤英語教育の充実 ⑥キャンパスの整備	①他校との教育連携に向けて継続して検討する ②学修成果の検証方法の検討と実施 ③地域体験等による人間力の育成の充実と可視化 ④入学定員50名の確保 ⑤学校種を超えた英語教育の充実を図る ⑥河内長野キャンパス内の整備に努める	①近隣大学との連携の実現 ②検証結果の報告 ③学生アンケート等で人間力の具体的な内容を可視化 ④募集活動の強化と入学者の増加 ⑤中・高教員免許(英語)の課程認定申請と認可の実現 ⑥学びの場の整備計画を策定	①高大連携については、暁光高校との連携として出前授業を実施した。 ②学修成果の検証方法としては授業アンケートしかなく、十分な検証ができていない。 ③地域体験等において人間力が身に付いたかどうかについては学科内で共有できていない。 ④1年次入学7名、3年次編入学2名、合計9名が入学した。 ⑤中・高教員一種(英語)免許課程認定申請が認可された。 ⑥施設の整備ができていないが、設備については、ipadの導入などICT環境整備を行った。	①短期大学や高等学校(含む高大連携)との連携の実現。 ②検証結果の報告。 ③学生アンケート等で人間力の具体的な内容を可視化。 ④入学定員50名の確保(含む編入生確保)。 ⑤中・高教員免許(英語)の課程の運営整備。 ⑥留学生複数名の受け入れと就学指導などの受け入れ体制の検討およびニーズ調査。
4		初年次教育・キャリア教育の提供	初年次教育とキャリア教育を充実させ、学生の基礎学力、コミュニケーション能力等の涵養を図る	①スタディスキル、専門教育の導入、チューデントスキル等初年次教育の充実 ②適性診断の実施、キャリア教育の推進	必修科目である導入研修の継続した実施により、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等の手法を通して学生のスキルを養う。	—	導入研修において、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等の手法で実施済み	ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等の手法を通して学生のスキルを養う
5		アクティブラーニングと遠隔教育のためのプログラム開発	アクティブラーニングと遠隔教育の実施に必要な教育プログラムの開発・導入を目指す	ICTを活用したアクティブラーニング・遠隔教育手法の開発	社会人新プラン実施のためのカリキュラム及び施設の整備	学内発信用スタジオ(3ヶ所)の年内整備	学内発信用スタジオ(3ヶ所)の整備・運用を開始。	学内発信用スタジオの充実。

②学生支援

項目		中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
1	修学支援の充実	修学支援の充実	学生の修学支援の充実を組織的に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ①奨学金制度・授業料減免制度及び特待生制度の充実とアナウンスの徹底 ②学生向け教科書（入門書等）の作成 ③オフィスアワーの充実 ④大学院による学生支援の充実 ⑤学習支援室の開設 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種奨学金、授業料免除制度及び特待生制度の充実と学生への周知徹底（メールやホームページ、OCを活用した発信で入学前から告知） ②教科書については教育（密教学科の充実）の項目を参照 ③オフィスアワーの利用促進のための情報発信 ④TA制度・PD制度の拡充 ⑤学生の個別学習指導等に活用、単位履修や進路について利用 	<ul style="list-style-type: none"> ①分かり易い案内用チラシや冊子の作成（具体例によるチャート図） ③オフィスアワー利用者前年比増 教授会での学生アドバイザー教員報告の実施（3-②、5-②同） ④新規PDの採用 ⑤教員による積極的指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①冊子作成中 ③教授会での学生アドバイザー教員からの報告の実施。 ④新規PD1名採用 ⑤教員による積極的指導を徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> ①分かり易い案内用チラシや冊子の作成（具体例によるチャート図） ②TAもしくはPDの採用（新規採用1名） ③教員による積極的指導
2		配慮を必要とする学生への学習支援の充実	配慮を必要とする学生の修学支援（学習支援・生活支援）を、教員と学務課とカウンセラーで協力しておこなう	<ul style="list-style-type: none"> ①カウンセリングの充実 ②カウンセラーとの連絡緊密化 ③教職員向け研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①②カウンセラーと、事務、授業担当教員が情報共有を図り指導を行う。カウンセラーと共に不登校学生の下宿訪問。外部医療機関（心療内科）との連携。適切に対処できるマニュアルを必要とする ③心理士資格を持つ教員による教職員向け研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①②利用者の増加、不登校・医療機関利用者の減少 ③年数回の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①②カウンセラー1名増員と担当事務員1名の配置 ③研修会の実施検討会議2回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①②カウンセラーの増員と学生相談事務員の配置。利用者の増加、不登校・医療機関利用者の減少。対応マニュアル作成。 ③研修会を年数回開催する

項目		中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
3	学生生活支援の充実	学生が楽しく充実して生活を送るための支援を拡充	学生の修学について生活面を含めてサポートしていく	<ul style="list-style-type: none"> ①学生の生活支援について学務課の相談窓口機能を強化 ②学生アドバイザー制度、オフィスアワーの充実 ③学生がリラックスできる空間を学内に設置するための計画立案 ④学生寮の整備計画の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ①個人メールアドレスの付与により学生に素早い情報提供と相談しやすい環境を整備 ②学生アドバイザーと事務担当者が連携し、よりきめ細やかな対応をめざす ③アカデミックコモンズの整備（学生談話室の現状把握と立案） ④学生寮における問題箇所の洗い出しと改善に向けた計画書の立案、及び改善のための予算確保に向けた取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ①全学生へのメールアドレス付与 ②学生への利用周知 1-③に同じ ③学生談話室改善計画の立案 ④エアコン設置 	<ul style="list-style-type: none"> ①全学生へのメールアドレス付与 ②学生への利用周知 1-③に同じ ③未実施 ④女子寮にエアコンを設置した 	<ul style="list-style-type: none"> ①学生相談事務員の配置と入室しやすいオフィス整備 ②学生への利用周知 ③学生談話室改善計画の立案 ④女子寮備品等の整備
4	就職支援の充実	就職支援の充実	キャリア教育、職業感の養成、就職支援をおこなう	<ul style="list-style-type: none"> ①個別就職指導と就業案内の実施 ②インターンシップ、キャリアアップ講座の実施 ③求人情報の提供 ④キャリア支援室の新設 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍の中、就職活動のあり方が大きく変化しており、リクルートキャリアのweb新卒総括セミナーなど、状況変化に対応した情報提供をメールを利用して周知する。また進路調査票を基に個別対応で求人票等の提供を行う ②インターンシップの縮小、参加する学生の感染防止意識から参加は難しい状況にあるなお1回生入学時にはSPI性格検査と能力検査を実施して、早くから職業適性、自己診断の就職に向けた意識を高める ③寺院・公務員・一般企業などの業種別に、希望する学生には企業の求人情報を提供する ④キャリア支援室を新設し、専門の教員に依頼学生に対して直接指導を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③④キャリア支援室を設置し、第2・第4木曜に支援担当者を常駐させ、ゼミ担当教員が学生に対し支援室の積極的な活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③④キャリア支援室を設置し、第2・第4木曜に支援担当者を常駐させ、ゼミ担当教員が学生に対し支援室の積極的な活用を指導した。 <p>就職実績は、僧侶10名、一般企業3名、IT関係企業1名であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①②③④第2・第4木曜にキャリア支援担当を常駐。また、ゼミ担当教員が進路について、学生に対し、このエリアの積極的活用を促す。

項目		中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
5	退学者・休学者の防止対策	退学者・休学者の人数を減らす	教員、学務課、カウンセラーが協力して、退学者・休学者を一人でも減らすように努力する	①オリエンテーション、初年度教育の充実 ②学生アドバイザー制度の充実 ③単位取得不足の学生には、後期科目の追加や指導等を行う。 ④保護者懇談等、学資出資者との連携を図る。 ⑤学費減免制度等	③授業欠席者の情報提供を教員から受け、学生の呼び出し、聞き取りを行い、状況に応じて学習支援室にて単位履修など修学支援を行う ④学生の状況を保護者に連絡し、保護者懇談会への参加を促し、早期に対策する ⑤コロナ禍の中、経済的困窮者に対し、公的補助の案内や手続き・修学支援を行う	②学生への利用周知 1-③に同じ 退学者数、前年度比3割減	①②③④⑤学生の状況により個別に対応 令和4年度の退学者数は16名（除く通信）。前年度退学者数が14名（除く通信）であったため前年比14%増加した。	②学生への利用周知1-③に同じ 退学者数、前年度比3割減

③研究

項目		中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
1	研究成果の国内外への発信	研究の高度化の推進	個人研究、グループ研究を組織的に支援する体制の整備を目指す	①個人研究を支援するための制度の検討と実施 ②研究所を中心にグループ研究を推進する体制を再構成 ③研究ブランドの育成、2019年度に終了した私立大学研究ブランディング事業の継続発展	①個人研究費や研究環境を見直すと共に、科研費申請の推進及び各種助成制度の周知を徹底する ②研究所研究会、弘法大師著作研究会、南山教学研究会、密教文献英訳推進会、高野山聖教調査研究に加え、補助金対策の一環で図書館から、ゴルドン関係文書調査研究、龍光院文書調査研究の移行を実施	①⑥財務-2帰属収支改善-外部資金増額-③科研費受給増を参照 ②毎年の研究所紀要等への成果公表	②③『論叢』、『密教文化研究所紀要』『同別冊』の刊行	①⑥財務-2帰属収支改善-外部資金増額-③科研費受給増を参照 ②毎年の研究所紀要等への成果公表

項目	中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み	
	目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標			
2	研究成果の国内外への発信	大学評価の向上	研究成果を国内外に発信し、大学評価の向上を目指す	<p>①学術論文投稿数の増加対策の検討・実施</p> <p>②高野山アーカイブの継続・展開</p> <p>③出版事業の充実</p>	<p>①「研究の高度化の推進」の項目参照</p> <p>②は下記の3研究成果の社会還元②を参照</p> <p>③高野山大学論叢、密教文化研究所紀要・大学院紀要・密教学会報、及び密教文化の刊行</p> <p>また今年度は創立135周年記念として教育学科開設案内本（今こそ教育）・医療フォーラム記録集のダイジェスト版及びフジキン記念講座講演集（宗教と科学4）を刊行する</p>	<p>紀要・論叢等の年1回発行</p>	<p>③『論叢』、『密教文化研究所紀要』『同別冊』に加えて、『生と死の21世紀宣言』ダイジェスト版特別選集『最後まで生きるために』上下巻を刊行。</p>	<p>紀要・論叢等の年1回発行</p>
3	研究成果の社会還元	産官学連携における研究貢献	宗門・地方自治体・企業・他大学の要求に応える研究を目指す	<p>①高野山ブランドの創出・展開</p> <p>②博学連携、高野山内古文書・聖教調査の実施</p> <p>③公開講座の実施</p>	<p>①東大先端研等の連携による第1回の高野山会議開催を契機に新たな高野山の魅力を発信する</p> <p>②博学連携や高野山内古文書・聖教調査結果を高野山アーカイブに反映させ公開資料充実を図る</p> <p>③コロナ禍における公開講座のあり方の検討</p> <p>昨年度は大阪・東京での連続講座を中止・フジキン記念講座（宗教と科学）をビデオ配信に変更した</p> <p>フジキン記念講座は今年度は高野山で開催予定</p>	<p>①高野山会議の継続的な実施</p> <p>および実績報告</p> <p>②高野山アーカイブの公開資料数の増加</p>	<p>①高野山会議を7月に実施した</p> <p>②『密教文化研究所紀要』『同別冊』を高野山アーカイブ上で公開</p> <p>③東京別院でフジキン記念講座を開催し、根来秀行氏の講演を実施した</p>	<p>①高野山会議の継続的な実施</p> <p>および実績報告</p> <p>②高野山アーカイブ・古絵図で歩く高野山の公開資料数の増加</p> <p>③東京での連続講座およびフジキン記念講座の開催</p> <p>④客員教授によるリレー講座の開催</p>

項目		中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
4	外部資金を獲得するための支援体制の構築	研究支援体制の充実	外部資金獲得の申請を奨励し、獲得を目指す	①外部資金獲得の申請および獲得のための支援体制の構築 ②外部資金獲得委員会の活動活発化	①⑥財務戦略-3科研費受給増に向けた取り組み項目参照 ②外部資金獲得委員会の定期開催	年4回委員会開催	①NTTとエクサウィザーズの3者でアーカイブの共同研究を行い補助を得た。研究所宗学連携事業として金剛峯寺法会課と高野山住職会と共同研究を行い補助を得た。	年4回委員会開催

④国際連携・地域連携・地域貢献

項目		中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
1	地域社会の発展への寄与	地域社会からの信頼の獲得	地域コミュニティの中核的な存在になることを目指す	①自治体行事への積極的な参加 和歌山県警の実施する「子供見守りプロジェクト」に参加 ②地図サイト「古絵図であるく高野山」の充実 ③災害時の地域との連携を推進	①自治体行事（青葉まつり、明神祭など）への参加を学生に促す 小学生・中学生の帰宅時間に各ポイントにて声掛けと見守りを実施 ②Googleマップを利用した「古絵図であるく高野山」の刷新 ③災害時の⑦組織・運営体制のページの自然災害・健康被害の危機管理の項目を参照	①行事への参加人数延べ20人 ボランティアへの参加学生の増加。 ③避難所としての機能と体制を具体化する。	①学友会を通して参加を促進。また、ボランティアへの授業と連携し小中学生の登下校の見守りを行い延べ20名が参加した。 ③学内設置のAEDを最新型に更新し健康危機管理を強化した	①行事への参加人数延べ20人 ボランティアへの参加学生の増加。 ③避難所としての機能と体制を具体化する。

項目	中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み	
	目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標			
2	産官学民連携による社会的課題対応	研究成果の社会還元	地域社会・産業・行政との連携の中で社会的な課題の解決を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ①自治体等との包括連携の推進 ②高野山学の発展的展開 ③産官学民連携事業の推進 ④高野山大学特任マイスター制度の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①高野町・金剛峯寺・東大先端研・和歌山県等との連携による高野山会議の開催に向けた取り組み ②金剛峯寺・高野町・高野町教育委員会との協力開講である生涯学習講座（高野山学）への施設貸出及び講師派遣 ③難波市民学習センターでの高野山大学官学連携講座の開催とフジキン小川修平記念講演会の開催 ④特任マイスター制度の確認と運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ③フジキン講演会1回開催。医療フォーラム総括出版。 	<ul style="list-style-type: none"> ③難波市民学習センターで高野山大学官学連携講座を3回開催した ※フジキン記念講演会は、③研究一3.産管学連携における研究貢献に集約 ④特任マイスター2名継続任用 	フジキン講演会1回開催
3	社会貢献活動	大学の社会的責任	寺院住職のリカレント教育 大学における研究成果の社会還元や弘法大師の思想に基づく人権思想の普及を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ①寺院住職リカレントプログラムの開講 ②公開講座の開催 ③大阪万博への参加準備 ④人権教育および人権啓発活動の推進 ⑤社会人受け入れのためのプラン策定 ⑥施設設備の貸し出し 	<ul style="list-style-type: none"> ①特別公開講座（伝授・講伝等）の実施により、リカレント教育を図る ②は上記の2の「産官学民連携による社会的課題対応」の項目を参照 ③フジキンとの連携により、大阪万博に向けてのパビリオンの内容の選定 ④金剛峯寺の人権局が開催する人権教育講座へ参加し、啓発活動への理解を深める また学内での人権に関する講演会や研究会を開催する ⑤参照①教育2-① ⑥行事等への施設の積極的な貸出を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ①特別公開講座は年4会の開催 ④年数回の講演会と研究会・研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①安流伝授会の開催を協議 ②金剛峯寺人権局との研究所との共同の人権講演会開催を協議して10月19日に開く 	<ul style="list-style-type: none"> ①特別公開講座は年4会の開催 ④年数回の講演会と研究会・研修会の開催

項目		中期目標		2022年度目標			結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
4	国際社会で活躍できる人材の育成	グローバル人材の育成	国際社会で活躍することができる人材を育成する。あわせて、日本文化を海外で発信する海外開教師等の人材育成を目指す	①英語プログラムの強化 ②留学生の就職支援の強化 ③海外研修プログラムの整備拡充	①理解度把握システムを活用し、総合的に英語能力を高める ②留学生に特化した日本語夏期講習の開講し日本語能力試験JLPTの取得を促進する ③高野山真言宗米国別院での語学研修や国際布教を実施する	①到達度を可視化し、効率的にレベルアップを図る ②大学院生はN1、学部生はN2の取得を目指す ③派遣学生年1名	①Web教材「hodoEnglish」を用いたスピーキングテストで会話力が向上した。 ②大学院生はN1を1名、N2を2名が取得した。 ③コロナ禍により派遣なし。	①到達度を可視化し、効率的にレベルアップを図る ②大学院生はN1、学部生はN2の取得を目指す ③派遣学生年1名

⑤施設設備整備計画

項目		中期目標		2022年度目標			数値結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
1	施設設備の修繕計画の策定	修繕計画の策定	時期・費用の明確化	①必要な修繕の把握 ②修繕計画の策定および予算措置の実現	・設備法定点検の不適合箇所 の修繕を優先し、他の修繕が 必要な箇所を洗い出す ・上記に応じた修繕年次計画 の作成と実行	2024年までの修繕計画書作成の完了	・インフラ設備更新のための修繕計画を策定した	・水処理やボイラーなど老朽化した設備の更新計画を策定する
2	固定資産のスリム化	固定資産の最適化・流動化	黎明館、その他遊休資産（加行道場、大学桜寮、弁天寮、教職員社宅、大園院前駐車場等）の多角的な活用方法と活用の見込みのない資産処分の検討	①各施設設備の活用方法の検討 ②方針決定後、順次実施	・現在の状況を把握、外部事業者・金融機関の提案をヒアリングし、活用資産と処分対象資産に分ける ・活用資産のための修繕資金計画を策定する	・活用資産の方針まとめ作成 ・処分対象資産の処分計画作成	・教職員社宅の有効活用を目的とし、空き物件の本山への貸出しを行った。	・令和5年度事業計画では項目1の修繕計画を重点的に行う。

⑥財務戦略

項目		中期目標		2022年度目標			数値結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
1	帰属収支改善	学生生徒納付金の安定的確保	2024年度までに定員充足100%を達成し、定員増を検討する	密教学科の新入学生定員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・高野山高等学校と連携…5名以上 ・全国寺院への資料郵送、架電、訪問などでのアプローチ…20名以上 ・社会人新プランでの入学生獲得…25名以上 	新入生30名 社会人編入25名（社会人新プラン）	新入生32名 社会人編入（密教文化コース）55名	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生30名 ・社会人編入25名（密教文化コース） ・密教文化コースの授業料値上げの検討
				教育学科の新入学生定員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・資料請求の実績が2021年度3,563件であったことを踏まえ、2022年度は、資料請求者6,000件を目標として、来校数：350名、出願者数：250名、以上を目標に高校訪問・SNSおよび媒体アプローチを実施する ・また宗務支所等の本宗寺院への訪問を実施し、理解・協力を求める 	資料請求6,000件 来校数350名 出願者数250名 新入生50名 総合選抜…5名 指定校推薦…17名 公募推薦入試…5名 一般入試…23名	資料請求3,154件 出願者数11名 新入生7名＋編入2名 総合選抜…1名 指定校推薦…3名 公募推薦…0名 一般入試…1名 社会人選抜…2名 3年次編入…2名	新入生50名 総合選抜…5名 指定校推薦…17名 公募推薦入試…5名 一般入試…23名 編入生 5名以上
2	外部資金増額	①特別寄付・一般寄付の増額	寄付金関係事務の固定化、および募集の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付金募集の新リーフレットを作成し、広域に寄付金を募る 	1,500万円 *2020(R2)年度比205% （宗団寄付を除く）	2,441万円 *2020(R2)年度比340% （宗団寄付を除く）	1,500万円 *2021(R3)年度比100% （宗団寄付を除く）	
		②補助金増額	補助金対象項目の見直しと改善計画の策定・実施	補助金担当者内で改善項目を抽出し優先順位を設定、受給項目および受給額を増やす取り組みを開始する	特別補助の受給項目+2	特別補助受給項目数→±0 ガバナンスコード策定により増減率はアップしたが、他項目でマイナスのため増減なし。	特別補助の増額	

項目		中期目標		2022年度目標			数値結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
2	帰属収支改善	外部資金増額	③科研費受給増	教職員への科研費説明会の実施	科研費説明会を開催し、採択経験をもつ教員に計画調書の書き方やポイントなどについて教授してもらい、各教員に積極的な応募を促す	教職員説明会開催 申請100%達成 新規1名採択	・教職員説明会→実施（2022年7月13日千代田短大と合同実施） ・申請率→36% ・新規→0名	・教職員説明会開催 ・申請100%達成 ・新規1名採択
			④資産運用	大学定期預金の見直し 特定資産の運用検討	・金融機関と交渉し極力高い利率で預けられないか検討する ・低リスク商品での短中期運用の検討	—	—	—
3		個人研究費の適正化	個人研究費規程強化・研究費の適正化	新規規程運用開始	大学の財務状況や補助金・科研費との関連を各教員に説明、理解を求めて執行する	—	教員増に伴い増額中・ただし予算に対しては350万円減	—
4	予算制度の見直し	新たな予算制度の構築	現状の予算制度では、適正経費（削減）に限界があるため、事業規模・事業内容・結果に基づいた予算制度を構築する	予算パターンの検討	予算パターンを複数検討し現行制度との比較を実施、学園本部と方向性を定める	新制度案策定	予算折衝時の項目を詳細化、また各課の予算削減目標値を通達	対前年度10%削減

⑦組織・運営体制

項目		中期目標		2022年度目標			数値結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
1	大学評価による恒常的な教育の質向上の推進	内部質保証システム及び全学的な情報の利活用の整備	2026年度からも大学基準協会から適合評価を受けることができるよう進めていく	必要な改善・改革の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・大学評価委員による中間適合監査を実施、要改善項目を確認し改善案と改善スケジュールを策定する ・上記の「①教育-1.教育の質的保証の充実」、「⑥財務-1~3.帰属収支改善」の各項目を参照 	中間監査実施および報告・対策取りまとめ	自己点検、外部評価を実施し改善案と改善スケジュールを策定した。	中間監査実施および報告・対策取りまとめ
2	教職員の人件費と評価制度	給与体系の見直しと評価内容の整備	教職員に対する評価制度を導入する 現行の年功給体系を見直し、評価結果を処遇に反映し、仕事への動機づけを促進する体系に改める	自己評価・自己点検の検討、実施準備	<ul style="list-style-type: none"> ・法人本部とともに自己評価、自己点検制度の素案作成 	制度案作成	未実施	検討中
3	自然災害・健康被害の危機管理	自然災害・健康被害に関する対策の充実	被害を最小限に抑え、教育機関としての事業が継続できるよう、自然災害・健康被害の対策の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ①災害時対応マニュアルの見直し（新型コロナウイルスの健康被害を含む） ②防災用備蓄品等の見直し ③学外機関・団体との協力体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災用備蓄品在庫の確認と必要数の確認 ・高野町と防災計画に関する打ち合わせの実施 ・共同での避難訓練実施の検討 	年2回の打ち合わせおよび年1回（10月）の備蓄品の確認の実施	未実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の打ち合わせおよび年1回（10月）の備蓄品の確認の実施

項目		中期目標		2022年度目標			数値結果	来期以降の取り組み
		目標	目標の説明	2022年度計画	詳細	目標		
4	事務組織の再編成	事務組織の課題及び整理	<p>新学科の設置に伴い事務部門の統合・再編を行い、一層の効率化を図る</p> <p>キャンパスの所在が3地域となるため、人事計画に則り各箇所での事務部門独立性と全体の本部機能の充実を図る</p>	<p>①事務組織の課題の洗い直しと再編</p> <p>②人事計画に則り、各箇所での人事配置と適正規模の判断</p> <p>③配置転換と本部機能の充実</p>	<p>・現状の問題点の洗い出しと事務組織再編に向けた検討・法人本部とのすり合わせ</p> <p>・定年退職等を見据えての長期の人事計画の見直し（配置転換を含む）</p>	-	<p>退職者4名</p> <p>新規採用4名</p> <p>キャンパス間異動1名</p>	<p>人件費総額上限を設定し、その範囲内と各課の適正人数を鑑み、採用・異動をおこなう</p>

3. 高野山高等学校の事業報告

項目	中期目標		2022年	詳細	数値結果	2023年度以降の取り組み
	目標	目標の説明				
高校運営	上部組織・外郭団体との連携	高野山真言宗宗団 高野山学園との連携強化	宗団・学園への現況報告	宗団への現況報告は宗会において実施 学園への現況報告は理事会・評議員会において実施	必要複数回	支所、伝道団会議で現況報告
		同窓会組織との連携強化	事業への参画	全国支部総会開催運営・「同窓会報」作成配布により、近況を同窓会会員へ周知	・総会実施せず ・女子寮リフォーム ご寄附の依頼	女子寮リフォーム事業の報告
	内部組織の活性化	月例職員会議の開催	当年度の学校運営・学事について	月例職員会議での協議	年12回	毎月実施
		校務分掌・各種委員会	当年度の校務分掌別小委員会の協議	月例職員会議に向けての協議	各所必要複数回	必要に応じて随時実施
	大学との連携	教員出講	高大連携による教員出講	大学⇔高校	大学・高校間での講師出講	必要複数回
事業の共催		募集事業の共同開催	募集事業の共催の模索	学生募集事業共催に向けた企画立案	年1回	高野山学園の塾対象説明会に出向

項目	中期目標		2022年	詳細	数値結果	2023年度以降の取り組み
	目標	目標の説明				
全日制課程	教育活動の充実	授業内容の充実	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	基礎学力の定着を図り、生徒目線に立った学習を推進	当年度授業を含む必要複数回	授業の充実化に向けた取り組み
		教科指導の向上	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	個々に応じた学びを大切にし学力の向上を図る。宿題プロジェクトの実施、スタディサプリの導入	当年度授業を含む必要複数回	主要5教科宿題の定着
		生徒の学力向上	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	国語・数学・英語において習熟度別学習指導の実施 学び直し授業の充実	当年度授業を含む必要複数回	平日夜間の寮における学習指導実施
	生徒支援の充実	学校行事の活性化	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	体育大会・文化祭において、生徒会及び実行委員会を中心とした生徒の自主的な活動の活性化を図る	必要複数回	生徒会を中心とした学校でのSDGsの活動開始
		部活動の活性化	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	・各コースの教育課程に学校設定科目(理論・実践)を導入 ・対外試合等の積極的实施	必要複数回	スポーツコースの対外試合の充実化
	進路指導の充実	ガイダンスの充実	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	・進路ガイダンスの充実 ・入試に向けた補習授業の導入	・2回(6/21、2/21) ・授業:3年/国数英(週1)	・進路ガイダンス ・補習授業(国数英) ・指定校・併設校合格者対象/学習(国英)
		新規指定校の獲得	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	・上位大学の指定校や就職先の獲得	推薦人数枠の増	・獲得した上位大学への進学 ・指定校推薦人数枠の増
	教育施設の充実	施設使用状況を再確認	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	・大学施設で行っていた特別進学コースの教育活動を本校に移行 ・特別進学コースの学習ルーム ・講堂脇部屋を整理し、護摩など拝める道場として活用	必要複数回	学習ルーム、護摩道場の活用開始

項目	中期目標		2022年	詳細	数値結果	2023年度以降の取り組み
	目標	目標の説明				
通信制課程	教育活動の充実	授業内容の充実	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図る ・メディア学習を活用した学びを積極的に進める ・ICT教育を活用し、学習指導を行う 	必要複数回	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図り、メディア学習を活用した学びを更に進める ・ICT教育を活用し、学習指導を行う
		教科指導の向上	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	生徒の家庭学習状況を随時把握し、各種通信手段を使って指導できる環境の整備と実施。東京学習センターの発展的閉鎖（本校に集約）。	必要複数回	各種通信手段を使って指導できる環境の整備と実施
		生徒の学力向上	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・サポート校との連携による、学力の定着や向上及び受験指導 	必要複数回	サポート校との連携 学力定着や向上及び受験指導の強化を進める
	生徒支援の充実	学校行事の活性化	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習など、参加型の行事を充実させ生徒の自主的な活動を促す 	必要複数回	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の行事の充実 ・生徒の自主的な活動を促す
	進路指導の充実	ガイダンスの充実	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や専門学校、企業の各種説明会の積極的案内 	必要複数回	大学や専門学校、企業の各種説明会の周知を積極的に実施する
		受験指導		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導や受験指導の充実 		学習指導や受験指導の更なる充実を図る

項目	中期目標		2022年	詳細	数値結果	2023年度以降の取り組み
	目標	目標の説明				
継続事業 新規事業	継続事業	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行 ・国際バカロレア ・中国上海朝陽義塾学校関連 	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	スクールバス運行を継続実施する 国際バカロレアコースの開設を目標とした国際教育の充実 中国からの生徒の受け入れ	固定利用22名 迎え 3608名送り3538名 開設年度再考 中国からの生徒2年生6名受け入れ	2023年度6名（5月現在）受入予定 スクールバス運行を業務委託で継続する
	新規事業（全日制）	・ICT導入	年次での内容、方法の検討と次年度への反映	・2023年9月よりICT教育開始。2022年は施設準備と教員の技術習得。スタディサプリ導入。	令和4年度導入	令和5年9月よりICT教育開始
		・高大連携強化	年次での内容、方法の検討と次年度への反映	・大学高校合同の募集会議を実施・宗教科授業の単位認定	必要複数回	主として生徒募集・学生募集のイベント共催を充実させる
		・特別進学コースの再構築	年次での内容、方法の検討と次年度への反映	・カリキュラムの見直しと小規模な改編により教育内容の向上	令和4年度より	令和4年度の課題をクリアしてゆく
		・駅伝部創部	年次での内容、方法の検討と次年度への反映	・運営方法構築と共に募集活動を強化	令和5年4月創部	可能な限りの大会エントリー
		・アメリカ短期留学制度の導入	年次での内容、方法の検討と次年度への反映	・セントモニカ高校と教育交流協定結 ・高野山米国別院との連携	令和4年度より	令和5年3月第1期留学生4名渡米
	新規事業（通信制）	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT導入・特別活動の充実 ・宗内寺院への募集強化 	継続実施・年次での内容、方法の検討と次年度への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制のICT導入をうけ通信制教育にも活用を見出す。 ・各寺院に本校通信制の理解を深めて頂く。 	補助金事業登録	事業費1,000万 1/2補助率で事業登録

項目	中期目標		2022年	詳細	数値結果	2023年度以降の取り組み
	目標	目標の説明				
生徒募集	生徒募集(全日制・通信制)の強化	広報活動の充実	過年度実績検証と新規事業の模索	・体験入学・入寮の充実	全日制50名 通信制10名を目標	従前の数値目標達成に向けて 検証・模索
	転編入試の充実	過年度の検証 現状把握と基本方針の策定	生徒募集の為のイベント 及び入学志願者確保に向けた取り組み	・資料請求データベースの構築・募集イベントへの参画		
	・中国上海朝陽義塾学校関連			・HP・SNSの活用 遠隔学校案内	留学生5名	
特色ある教育活動の展開	教育改革推進特別事業	補助金申請・3項目採択	複数採択を目指して事業内容検討	・教育相談体制の整備・外部人材活用2項目の採択	補助金144万円	複数項目の採択を目指し、 2023年度以降も取り組む
施設・設備の整備事業	男子寮建設事業	事業完了	実地検査に向けた準備	築1年以上の建物検査	令和5年度以降に検査	令和5年度以降に建物検査及び消防設備検査
	3号寮改装	女子寮の充実	計画策定	3号寮各部屋・浴室・洗濯室・トイレ	3号寮改装工事完成	正面壁施工。消防設備の新規取得を検討する
	各所修繕	長期計画策定	現状把握	固定資産の新規取得と除却(武道場の改装)	2号寮の建物他固定資産を除却	地下燃料タンクの修繕と消火設備の新規取得を検討する
	新規設備導入	ICT導入計画	補助金事業登録	事業登録に向けた計画策定	令和5年度事業登録及び施工	令和5年度補助金獲得と新たな事業を展開する
その他の事項	新型コロナウイルス感染拡大への対応	危機管理マニュアルの作成	過年度実績検証	学校意志決定の迅速化に向けた協議	行事の際徹底して実施	2023年度以降も取り組んでゆく
高野町との連携	防災	防災計画策定・災害対策への参画		災害時、避難場所として施設を開放	必要複数回	高野町防災担当及び消防署との連携を強化する
	事業参画	町主催イベントへの参加		イベントへの参画と会場提供	実績なし	2023年度以降も取り組む

4. 高野町立高野山こども園の事業報告

項目	中期目標		2022年	詳細	数値目標	結果	来期以降の取組
	目標	目標の説明					
教育・保育の充実	1号認定園児対応	預り時間の短い1号認定園児の受け入れに当たり、教育内容のさらなる充実が必要となる	教育内容のブラッシュアップ	既存・新規の委託事業者に相談し、必要に応じて契約の見直しと追加を行う	2件以上	外部講師を招き、えいごやALTの時間を取り入れた。	教育内容を充実し、周知するとともに、保育を必要とする2・3号児との違いを保護者に理解してもらう。
	教職員の啓発・スキルアップ	園児・教職員・保護者それぞれにとって良いこども園をつくるために、教職員の意識改革・スキルアップを促す	研修の充実	随時フォローアップ研修に参加し報告書を提出、合わせて全員に子どもの虐待・体罰防止の研修を実施する	全教職員 2回以上	県主催の合同研修やキャリアアップ研修に参加。その後、報告書を提出。 臨床心理士による年4回園内研修を行った（全職員） ・10/20-子どもの接し方 ・12/23-子どものストレス ・1/24-子どもを理解するために ・3/17-危機対応について	スキルアップのため次年度も引き続き積極的に研修に参加する。
			現場監査の計画策定・実施	教職員・法人本部と協力し監査計画を策定、複数回実施し理事会および保護者会にて報告する	年2回	園長、副園長、主任中心に法人本部と連携を取り、改善に取り組む。また、改善事項を保護者に配付した。	改善事項に基づき、保育を改善し、保護者会で報告する。
	教員・保育士の安定的確保	町の移住・子育て支援施策と連動し入園希望者も増えているため、対応できるよう保育士を確保する	募集広報実施	高野町と協力してハローワークに働き掛けるほか、掲載媒体の見直しを行う	1名以上採用	5年度に向けて3名採用（副園長、看護師用務員）	正規職員、パート職員募集中
			資格取得支援	資格取得支援制度を見直し、合格後の報奨金制度の設定	1名合格	子育て支援員の資格を6名取得	今後もスキルアップや資格の取得をめざす。

項目	中期目標		2022年	詳細	数値目標	結果	来期以降の取組
	目標	目標の説明					
教育・保育の充実	教員・保育士の安定的確保	町の移住・子育て支援施策と連動し入園希望者も増えているため、対応できるよう保育士を確保する	教職員の長期就業支援	園内外の相談体制を構築、教職員同士のコミュニケーションの円滑化を目指す	退職1名以下	退職者1名 (一身上の都合)	働きやすい職場環境をつくり、職員同士のコミュニケーションを図る。
保護者・地域との協力体制確立	保護者への報告・サービスの充実	顔の見える園となることで大切な地域の方々と安心・信頼のある関係を維持構築する	保護者会の保育士積極参加	現在随時開催となっている保護者会に全保育士が積極的に参加する	全保育士2回以上参加	園児3名が関係する事案について3回の保護者説明会を開催。 全保育士が参加した。	保護者とより信頼関係を築くために保護者会には今後も積極的に参加する。
			苦情対応マニュアルの活用	マニュアルの内容を教職員に周知し記録書を整備、必要に応じて第三者委員への報告を記録書に基づいて行うことを徹底する	全件対応完了	マニュアルの内容を再確認し、園児3名が関係する事案について報告した。 1/10(火)、1/17(火)、1/24(火)第三者委員会を開催した。記録書に基づいて報告を行った。	苦情対応マニュアルを意識しながら、子どもや保護者に寄り添い、安心・信頼のある関係を築いていく。
	高野町との連携	委託者である高野町と協力することで、地域の教育・福祉の向上に努める	子育て世代包括支援センターとの連携	センターとともに課題を洗い出し、改善策を検討、実行する	年2回以上	子育て支援センターがこども園内に開設されることに伴い、事前の打ち合わせを担当課と定期的に行った。	子育て支援センターの啓発を行い、地域の人が利用しやすい環境をつくる。

項目	中期目標		2022年	詳細	数値目標	結果	来期以降の取組
	目標	目標の説明					
施設・設備の整備	高野町学びの拠点整備事業への対応	高野町学びの拠点整備事業として、小中学校・こども園・高野町役場の移転が計画されているため、より良い教育・保育の環境をつくるために尽力する	新園舎建設・移転	新園舎完成に向けて、移転を含めハード・ソフト面での必要な取り組みに協力する	随時	新園舎建設、移転に向け、担当課とハード面、ソフト面について定期的に打ち合わせを行った。	新園舎が子どもや職員にとって過ごしやすい環境をつくっていく。
令和5年度以降の方針検討	-	-	園運営方針の見直し・相談	学園内で今後どのようにこども園を運営するか方針を検討、高野町と協議の上受託事業者プロポーザルの参加を検討する	事業者プロポーザル実施まで	受託事業者プロポーザルに参加し、指定管理を受けた。	引き続き、積極的に取り組んでいく。